

日蓮宗北米教区教師研修会講演報告

望 月 真 澄

平成23年2月26日から27日にかけて行われた日蓮宗北米教区教師研修会講師として筆者は渡米した。そこで、その折りに見聞し、体験したことを記すことにする。

※本稿を成すにあたって、日蓮宗北米教区長金井勝海先生、日蓮宗回教布教センター所長平井智親先生、並びに北米開教師、国際開教師の各聖には原稿内容に関するご指導を頂戴し、海外布教に関するご意見を賜った。記してその学恩に感謝する次第である。

北米の開教事情について、以下、私なりに感じたことを記すことにする。なお、本稿では、北米は北アメリカ地域（アメリカ・カナダ・アラスカ等）を指し、米国はアメリカ合衆国を指している。北米教区は現時点で日蓮宗の教会があるアメリカ・カナダ地域を対象としたい。

アメリカ国内各地には、日本の成田や関西空港他から飛行機が飛んでいるが、平成22年10月頃より羽田空港の国際線開港により、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコとの路線が新たに結ばれた。そこで、今回は羽田空港からアメリカ西海岸のサンフランシスコに向かった。日本との時差は17時間で、日本の方が時刻は進んでいる。したがって、日本からアメリカ西海岸に到着すると、時間が戻ったことになる。今回は、北米開教区長の寺院であるネバダ観音寺を参拝するため、サンフランシスコからトランジットでラスベガスに飛んだ。1時間30分のフライトであるが、ストームの風に乗り、約1時間で到着することができた。時刻は既に夜の8時過ぎであったが、空港がラスベガス中心地と近距離にあり、着陸する折

は中心地ストリップ通りの巨大ホテルや町並みの灯りが見え、あまりにも煌びやかな灯りと周辺の暗闇とのギャップに少々戸惑いを感じさせられた。これがアメリカの楽天地、ラスベガスである。

1 米国の宗教事情

アメリカでは、1800以上の異なる宗教が存在するといわれるが、そのうちの大半が「ユダヤ・キリスト教的伝統」を持つ宗教だと見られている。合衆国統計局のデータ（2000年）によると、米国の総人口の47.2%にあたる1億3337万7000人がキリスト教を信仰しており、総人口の約分近くがキリスト教徒で占められていることがわかる。

また、ニューヨーク市立大学が2001年に行った調査『アメリカ人の宗教意識調査』では、合衆国に居住する5万人に対して行ったランダム電話調査を実施したところ、「信仰する宗教は何か?」という質問に対して、仏教をみると、約0.5%しかないことが報告されている（文化庁編『海外の宗教事情に関する調査報告書』平成20年）。

①日蓮宗開教布教センター

筆者が北米開教区から依頼されて講義した場所は、日蓮宗開教布教センターでハイワード市内にあり、正式名称、住所は次のようである。

Nichiren Buddhist International Center（略称 NBIC）

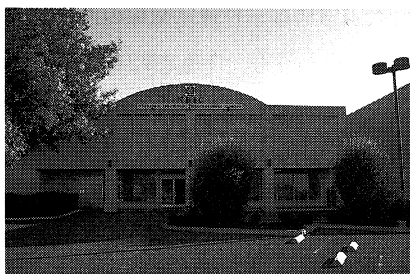
29490 Mission Boulevard Hayward, California 94544 USA

開教布教センターが現在行っている事業は、機関紙「ブリッジ」の日英両語による発行、ホームページの運営、各種英文パンフレット、書籍、ビデオ、カセット、CD、DVDなどの発行販売、教師用・沙弥用・檀信徒用各種研修の主催、英語回向集・法話集・結婚式資料集など布教資料の作成等である。

開教布教センターは大きく分けると広報、出版、研修の3つの業務を行っ

日蓮宗北米教区教師研修会講演報告（望月真澄）

ているとのことである。最近、沙弥セミナーを開催したということである。これは当センターでが通常年1回外国人沙弥のために研修を開催しているもので、平井所長の話によると、「言葉も文化も違う外国人が発心するのはたいへん喜ばしく、我々日本人教師にとっても励みになります。」ということであった。



日蓮宗開教布教センター

近年は、日蓮宗声明師会連合会の支援により、日本から講師が派遣され、充実したセミナーとなっている。

②英字の経本出版事業

仏教経典『法華経』や日蓮聖人遺文『観心本尊抄』『立正安国論』等の日本語表記のものが英語に翻訳され、英語圏内の国々で読まれているのは筆者も知っていた。しかしながら、英語のお経本があるのには驚いた。



センター刊行の書籍・DVD類

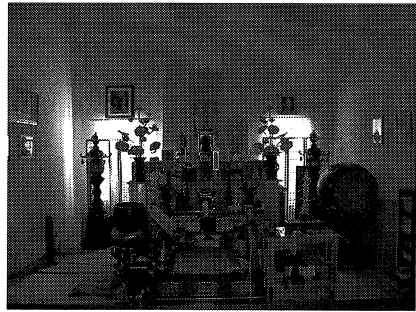
北米では、英語と日本語の両方で布教活動を行っているため、式典も二カ国語による儀式であった。研修会の開講式と閉講式は、前者が日本語で、後者が英語で読経を行った。英語で読む法華経や勧請・廻向のイントネーションがわからない筆者にとっては新鮮であったが、かつ英語で読み上げる勧請・廻向といったスタイル、読経のリズム、木鉦のテンポといった米国人用に合わせた儀礼に苦慮している様子を感じさせられた。海外布教がいかに難しいものであるかを実感させられた次第である。

図書室には、日蓮宗関係の図書・雑誌・その他の刊行物が蔵書されていた。これからも、日蓮宗関係の書籍類を蒐集していきたいということであったので、筆者も身延山関係のパンフレット類や書籍等を寄贈した。

そして、拙著の『身延山を歩く』、『身延山信仰の形態と伝播』、『御宝物で知る身延山の歴史』他を寄贈した。

③ラスベガス観音寺訪問

金井勝海先生は、近年ラスベガス市内の住宅を買い求め、新たに布教拠点としての「ネバダ観音寺」を建立した。以前は、アリゾナ州で布教活動を行っていたそうである。観音寺は古い寺院名簿には掲載されていないが、平成22年度作成の『日蓮宗寺院名簿』には「ネバダ観音寺」として掲載されている。



ネバダ観音寺の内陣

寺院といっても一般住宅を改装し、内陣をつくったもので、日本の寺院を想像すると、境内はあまり広いという雰囲気ではない。しかしながら、観音寺は、写真にあるように仏間の中に日蓮宗宗定本尊、立像の観音像が祀られており、日本の日蓮宗寺院と変わらない荘厳さである。礼盤・須弥壇・灯籠・五具足・位牌等があり、日本の寺院の形態をそのまま写しだしている感じであり、堂内だけを見ていると、日本の布教道場のようである。本堂には信行会の折に信徒が使用する大太鼓、団扇太鼓・輪袈裟・経本等が置かれている。

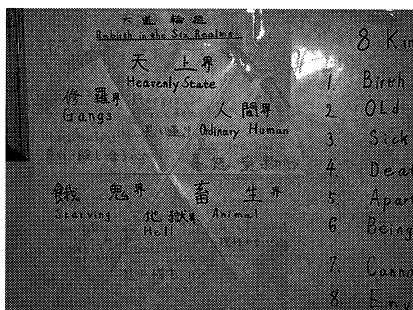
毎週日曜日には礼拝があり、信徒が集まるという。年中行事として、お会式、彼岸会、釈尊降誕会、立教開宗会他がある。毎週水曜日午後7時半から法華経講座（英語）、毎週金曜日午後1時半から日本語個人レッスン、

日蓮宗北米教区教師研修会講演報告（望月真澄）

毎週日曜日午前10時半から日曜礼拝として唱題行、祈願会を行っている。毎朝7時から朝勤を本堂で行い、信徒の参加を勧めている。

布教活動は、米国人対象ということで、英語で会話を行い、加持祈禱を修している。金井先生は、日蓮宗の荒行堂を二度（再行）成満しており、北米でも修法師として活躍している。加持祈禱を修することに関しては米国内でも賛否両論あるそうであるが、金井先生は信徒に加持祈禱を修し、信徒の拡充と布教の一助としているという。

右写真にあるように、仏教用語の解釈を講義するとき、日本語の仏教語と英語を対照し、信徒に説明しているという。十界、六道、六波羅蜜といったいくつかの日本語・英語の説明板が置かれていたのが印象に残った。



仏教語の日本語と英語の解釈

布教誌として、毎月『光輝』（RADIANCE）を刊行しており、2011年3月1日発行の段階で20号となっている。内容は、聖語、法華経と日蓮聖人、法要報告、行事予定等が日本語（縦書）で記され、併せて同じ内容の英語版が付されている。刊行の形態は、12頁ほどの折り込んだ形である。

ここで、金井先生の開教師としての履歴を紹介させていただくことにしたい。

1964年4月から次席開教師としてロスアンゼルス日蓮宗別院で布教活動を行い、1979年9月にユタ州ソルトレイク日蓮仏教会の主任となる。後にワシントン州シアトル日蓮仏教会へ赴任したが（1988年8月まで）、父親の遷化にともなって日本へ単身赴任し、1994年6月に再びロスアンゼルス日蓮宗別院に主任として赴任し、13年間勤める。次第に別院が経済的に自

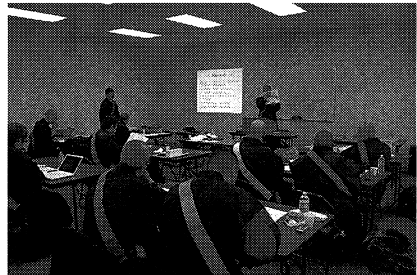
立てできるようになり、自身も年金をもらえるようになったので、念願であった新地開教としてラスベガスという地域を選び、本年で3年が経過しているそうである。今年の春から家の外にネバダ観音寺の看板を掲げた処、大衆の目につき、居住区での宗教活動は違反ということで警察から注意を受けた。現在も教会の継続が危ぶまれている状況であり、いかに新地開教がたいへんであることがわかる。

2 講義の概要

講義内容は、以下の通りである。

- I 身延山という霊場
- II 身延山五重塔建立の意義
- III 祖山総登詣の意義
- IV 海外伝道の祖日持上人の足跡（樺太）
- V 海外布教の歴史と展望

英語が話せない筆者であることから、日本語で筆者が話し、その後に関教師の通訳によって英語に翻訳してもらった。通訳は、シアトル日蓮仏教会の樋口法紹先生、ニューヨーク大聖恩寺の熊倉祥元



講義風景

先生、ネバダ日蓮仏教会観音寺の金井勝陀先生に行っていただき、感謝に絶えない次第である。一般用語ならともかく、仏教後や日蓮教団史の用語を翻訳するのは並大抵のことではなく、ご迷惑をおかけした。

2日間という日程であり、その講義日程は参考資料（4）の通りである。開講式は、日本語のスタイルで行い、閉講式は英語で行った。筆者にとって日本語での法要式は何とか対応できるが、英語となると雰囲気は飲み込

めない。自我憐を英語で木釘を打って読んでいく拍子には、ついていけず、いささかの戸惑いを隠せなかった。アメリカ国内において、さまざまな形で法要式を行っていると感じ、相手に合わせての布教スタイルをもっていなければならないと思った次第である。

3 米国内研修と観光

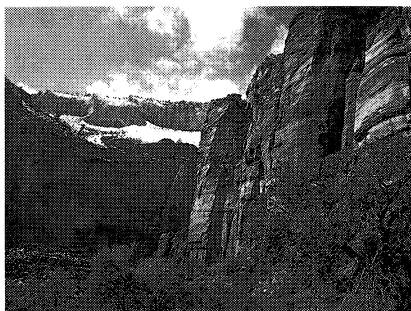
①ネバダ州近郊の観光

ラスベガスというと地上の楽園といわれるほど、市内繁華街の至る所にカジノ（CASINO）があり、国家公認の賭博場があった。ラスベガスに到着した飛行機のタラップを降りると空港内にスロットマシンが置いてあるのには目を引き、飛行機の待ち時間の合間にマシンにお金を入れている人々の姿には絶句した。空港を降りても街の灯りが半端でなく、煌びやかに飾られ、巨大ホテルの立ち並ぶストリップ通りを車で走ると、模造されたエジプトのスフィンクス・ピラミッド、パリの凱旋門、エッフェル塔、といった世界の有名な建造物が照明で映し出され、通るだけで世界を漫遊した気持ちにさせてくれるからリッチな気分になれる。

ザイオン国立公園、レッドロックキャニオン国立保護区といった大自然がある場所を金井開教区長に導かれてトレッキングした。金井先生の案内するまま、先生にすがってついていった。

（a）ザイオン国立公園

公園は、ラスベガスから北東へ約158マイル（約263キロ）のところに位置しており、車で約3時間程の場所にある。ラスベガスのあるネバダ州からアリゾナ州、そし



ザイオン国立公園

日蓮宗北米教区教師研修会講演報告（望月真澄）

てユタ州へと入っていく。途中、岩肌ばかりの山々が連なり、アメリカの南北に走るロッキー山脈の一部であることを感じ、雄大なアメリカの大自然を間近にみて、日本とのスケールの違いを感じさせられた。国立公園内の地形は、激流の川の渓谷として知られるナロウズに沿って砂漠から森林までと変化する。ザイオン国立公園周辺地域の天気と気温はとても変化に富み、夏は38C以上まであがり、冬季期間には高山地帯の多くが雪に覆われるという。ここはノース・フォーク・ヴァージン川によって赤く日に焼けたナバホ・サンドストーン（砂岩）が侵食されたもので、6キロ程の渓谷となっている。登園した時期が冬場であったため、岩の上部の平らな部分には雪が残り、川面にいると、ここが地上界であり、岩を登っていくと天上界、すなわち仏様のいる世界が白いカーテンとなり荘厳されている感じがした。ロッククライマーの聖地となっているようで、岩を登るクライマーを見ていると、天上界に昇ろうとしている姿に見え、この姿が仏教の須弥山を彷彿しているようであり、仏教世界を演出しているようである。

公園内を歩いてみると、写真のような岩の数々が反り立って並んでいる光景が目飛び込んでくる。因みに、グランドキャニオンは絶壁を上から見下ろす形で見るのに対して、ザイオンはそれを下から見上げるような形で見るようであるといわれている。アメリカの大地の上に立ち、仏教信仰を頭に浮かべながら、暫く岩々を眺めてみると、面白いことに眺めていた赤い岩が仏陀のように見えてくるから不思議である。そのうち、鬼のような岩が鬼子母神に見え、笑っている岩が大黒天に見えてくる。大黒天の横に並ぶ岩が夷天、つまり二つの並んだ岩が夷・大黒の二天と感ぜさせてくれる。鬼子母神が子供の手を引いて立っている姿にみえる岩、観音菩薩のような岩、挙げれば切りがないほどである。

人が立っている姿は菩薩のようであり、開祖日蓮聖人の合掌している姿にも見えてくる。アメリカに日蓮宗の寺院が建立されている今、日持上人

の海外布教の志しが北米の地に根付いているように思えてきた。これは、幻想であろうか。あくまで、これは私見であることを付け加えておく。

（b）レッドロックキャニオン国立保護区

保護区は、ラスベガス郊外にあり、車で市内から40分ほどで行け、ラスベガス観光に併せて比較的観光しやすい立地条件にある。ラスベガスの観光地としては、「グランドキャニオンとデスバレーを足して2で割ったような絶景地帯といってよい。地殻変動が激しいこ



レッドロックの岩肌

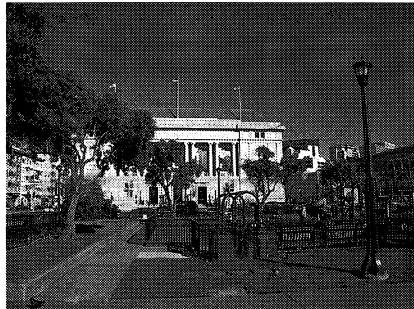
の地域ならではの壮大な断崖絶壁、断層、赤い岩などに加え、デスバレー並の大パノラマを楽しむことができる」と絶賛されている。

車でいくつかの観光ポイントを周遊できるが、インディアンが住んでいた炭焼き場の跡や壁に描いた絵の跡が残され、アメリカ開拓の歴史を体感することができた。ビジターセンターには、観光場所の紹介やビューポイントが示され、棲息する生物の標本や模型が展示してあった。

②アジア美術館拝観（サンフランシスコ市内）

アジア40カ国から蒐集した14000点が収蔵される博物館。

1階から3階まで、フロア毎にアジアに関する資料が国別（主に日本・韓国・インド・中国・タイランド・ベトナム・カンボジア・チベット他）に展示がなされている。日本に関するコーナーも充実



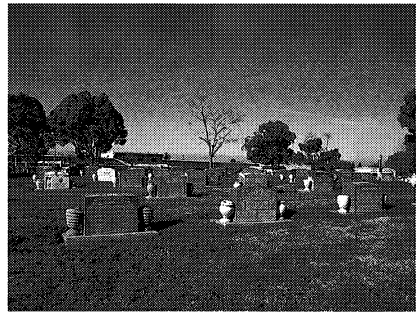
アジア美術館（サンフランシスコ）

し、甲冑から刀剣・日本画の数々が所狭しと陳列されている。仏像や仏画もいくつか陳列され、毘沙門天像、平安時代の阿弥陀仏像が印象的であった。中国で338年の紀年銘のある金銅仏陀坐像（像高39・4寸）が注目をひく仏像である。

訪れた日はバリ島の美術に関する特別展を開催していた。東洋の仏教美術に関する資料を豊富に収蔵する博物館であり、展示品の中には仏教関係のものも多く、逸品が、何気なしに展示されていることが不思議に思えてならない。

③アメリカの墓地（ヘイワード市内）見学

日本人は、骨に対する執着があり、先祖の遺骨を安置する墓塔が寺院（菩提寺）内に建立されている。身延山も納骨の霊場として全国各地の信徒が納骨する。最近の日本では、永代納骨、夫婦墓、個人墓、合葬墓といったものができ、墓地の形態にも変化がみられている。



墓地（ヘイワード市内）

る。葬儀の形態も、散骨、家族葬といったものが行われるようになった。自分の家の先祖代々の供養や家の墓を守るといった意識はどこかへ消え失せようとしている昨今である。

米国では、基本的には夫婦墓であり、家（個人）単位となっている。アメリカという国内の移動社会、核家族制度といった社会環境の違いで、先祖代々の墓を守るといった風習などはない。よって、広大な墓園に夫婦墓を中心として個人墓が建立されている。

④カリフォルニアのワイナリー見学

カリフォルニア北部には、ワインの産地として名高い、ナパバレーとい

日蓮宗北米教区教師研修会講演報告（望月真澄）

う地域がある。ここには約400軒ものワイナリーがあり、カリフォルニアワインというブランドとして世界最高級のプレミアムワインを製造する工場もある。そのワイン工場のいくつかを見学したが、ワインの製造過程を絵入りで紹介しているコーナーがあり、ワインの歴史が理解できる展示であった。当地のワインを試飲してみると、思ったより芳醇で、ヨーロッパワイン、とりわけフランスワインに引けをとらないアメリカワインの奥深い味わいを感じさせられた。

⑤カリフォルニア州立大学バークレー校（略称 Cal）見学

バークレー校に行き、キャンパス内を周遊し、附属図書館を見学した。図書館はキャンパス内に一つではなく、独立したアジア図書館があることは注目に値する。

キャンパスは広大で、世界各国から学生が集まり、キャンパス内の芝生の上で本を読んだり、ランニングしたりと、学生生活を有意義に過ごし、楽しんでいる様子であった。



アジア図書館（カリフォルニア大学バークレー校）

イギリスの教育専門誌『Times Higher Education』が「World University Rankings 2010-2011」として2010年から2011年の世界大学ランキングを発表したが、カリフォルニア州立大学バークレー校は8位に入っている。アメリカ国内では、私立のハーバード大学、スタンフォード大学が有名であるが、州立のバークレー校もランキングにアップしている。ランキングにはアメリカ内にある大学が常に上位を独占しており、世界で認められている大学がアメリカ国内の東海岸と西海岸に多くあるのである。西海岸では、カリフォルニア州立大学バークレー校とスタンフォード大学が永遠のライバル校として現在も互いに凌

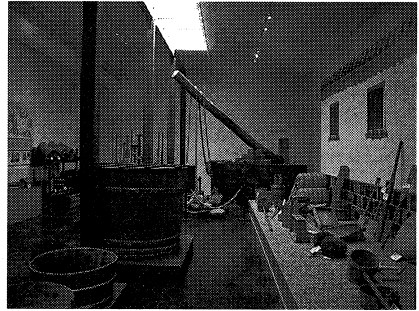
ぎを削っているそうである。

⑥宝酒造工場見学

宝酒造株式会社（英文名：TAKARA SHUZO CO.LTD.）は、カリフォルニア州バークレー市内にある。

日本にある宝酒造製品の海外への輸出は、昭和26年（1951）に米国へ清酒「松竹梅」を輸出したのが戦後初であり、その後、輸出国や品目を拡大し、現在は、世界30カ国以上へ輸出されている。戦後初めてアメリカの現地法人を経営したのは昭和57（1982）のことで、翌年に米国宝酒造（株）として米国内で清酒の製造を開始している。他の日本酒として白鹿、月桂冠、大関といったブランドが米国内に進出している。

工場内には、工場見学はもとより、日本酒を試飲する場所、展示施設が設けられていた。展示施設では、日本酒の醸造過程が絵入りで紹介され、日本から杜氏を招き、アメリカブランドで販売している



宝酒造の展示コーナー

ということがわかった。「SAKE」とアルファベットで書かれた瓶に詰められており、味は日本酒でありながら、日本酒とは感じさせないパッケージである。

まとめに —海外布教の現状と開教師との懇談から—

アメリカ国内には日蓮宗の布教活動を行っている僧侶として開教師と国際布教師がいる。日蓮宗の規程によると、「日蓮仏教の普及を行う僧侶を「国際布教師」と呼び、日蓮宗組織の拡張を行う僧侶を「開教師」とする」と定義されている。いわゆる前者は主に日本人が海外に行って布教活動を

行う教師をいい、後者は日本国籍を持たない人が日蓮宗の教師となり、海外で布教活動を行う人をいう。

因みに曹洞宗では、国際的な布教を担う宗侶のことで、かつては「開教師」と呼ばれていたが、名称が変更されて「国際布教師」と称している。これは『曹洞宗宗制』『曹洞宗国際布教規程』で定めるところであり、国際布教を希望する者の申請により管長が任命する。任期は4年で、再任が可能となっている。

北米開教区内には、平成21年度版『日蓮宗名簿』（22年2月16日現在）で北米教区内に日蓮宗の教会が14か寺存在している。場所は主に日系人が住んでいる地域に多く、開教拠点としてロサンゼルスの日蓮宗米国別院、サンノゼ日蓮仏教会妙覚寺別院、サクラメント日蓮仏教会、ポートランド日蓮仏教会、シアトル日蓮仏教会、といった西海岸地区に多く、新たにテキサス、ニューヨーク、シカゴ、そしてカナダのトロントといった地域に教会が設立されている。もちろん、ハワイ州にも教会はあるが、ハワイ開教区としてハワイ日蓮宗別院をはじめとする5ヵ寺が存在し、布教拠点となっている。寺院組織として経営している教会ばかりではなく、多くの教会は個人の所有や借家・借間であり、個人の家の場合も家の一部を仏間にして御本尊を勧請し、布教活動をしている形態も多い。

北米では、日蓮宗教師のことを先生と呼んでいるので、ここでは開教師を先生という尊称で呼ぶことにした。

教会の信徒（メンバー）は、その教会にもよるが、多くは50人から100人（軒）位である。メンバーの出入りがあり、定着しているメンバーは限られているという。先祖供養、祈願のお布施は、日本よりも少ないということで、葬儀に執着しないアメリカ人の葬儀の導師料や戒名料（法号料）は日本のようにはいただけないという。

アメリカ国内には、白人、黒人他のいろいろな人種があるとともに、キ

リスト教、イスラム教、仏教、その他の多くの宗教が混在している。その中で日本の宗教は禅宗をはじめ、新宗教を含めると多くのアメリカ人が仏教に帰依している。特に、創価学会による布教が盛んで、SGI（創価学会インターナシヨ



北米教区の日蓮宗寺院分布

ナル）として全世界120カ国余で布教活動を行っている。SGIは1975年に発足し、世界的な布教組織となっている。段勲著『創価学会インタナショナルの実像—池田会長が顕彰を求める理由』（リム出版新社、2003年）によると、海外に進出していった日本の宗教として「天理教、立正佼成会、霊友会、PL教団、世界救世教、生長の家、真如苑等があるが、諸外国で布教を図るこのような日本の宗教団体の中で、会員数の規模や多様な活動ぶりを比較しても、やはり突出しているのは「SGI」である。」としている。同著では、創価学会の海外布教はアメリカから始まったとし、「世界の恒久平和」というスローガンを表看板に掲げ、池田大作を指導者として戴くSGIという国際組織の実像に迫った内容である。

よって、日蓮宗に興味をいдаく米国人の多くは、創価学会を脱会した人が多いそうである。創価学会員は、仏教や日蓮宗の教義のことをよく勉強しており、仏教に対して深い関心を持っている。こうした信徒に対応するため、日曜礼拝や説教の折に開教師は内容に関する下調べをしておかなければならない。よって、開教師は日頃、日曜日の説教の為に資料を収集し、下勉強をしている。米国と仏教とのつながりは、禅宗、いわゆる日本の臨済宗、曹洞宗が先駆けで、米国内に多くの寺院を建立している。

日本の仏教スタイルの日曜礼拝時には、お経をあげるのは当然のことな

がら、バザーを行い教師やメンバーが作ったものを売り、教会運営費に充てているという。

教会内で一人で布教活動を行うには何とかなるが、家族をもつての生活は教会の収入だけではたいへんということである。多くの開教師が別に仕事を持ち、土日になると教会の布教活動を行うという人がほとんどを占める。また、教会の近くには家族の子供の通う日本人学校があまりなく、教育環境は整っていない。とにかく、家族を持って教会を運営していくには多くの支障がつきまとうようである。

アメリカは保険社会であり、家族に対して個々に生命保険・傷害保険をかけなければならず、保険に入っていないと診断してくれない医者もいるそうである。

海外布教の最前線に立っているのが開教師である。日本の僧侶が開教師として活躍するにはたいへんな環境であるが、現在もアメリカ各地で家族を養いながら布教活動に邁進している開教師には頭が下がる思いである。

海外に行った場合には“まず語学”で、とりわけ米国では英語であり、言葉が通じなければ仏教の教えなどとても伝えられない。日本からは語学を学ぶためにアメリカの語学学校に入学し、それから布教活動を行うことになる。宗教ビザでは、3年か4年しか在国できず、ちょうど英語を使えるようになった頃には日本に帰国しなければならない。今の法律では日本に1年間帰国し、それから再度ビザを取り直すという。日本に戻ってから1年間という歳月は長く、これでは再度渡米し開教師を志す教師が少なくなるのは当然である。法制度の改正も必要であるが、開教師の生活保障も課題となるところである。

最後に、北米教区から『開教最前線』という布教誌が出版されている。一般に流布している雑誌ではないが、これを読むと開教師の海外布教に苦慮している点や布教にかける情熱が伝わってくる。開教師のことを理解す

日蓮宗北米教区教師研修会講演報告（望月真澄）

るには、この布教誌を是非一読されたい。

【参考資料】

北米教区研修会関係次第

(1) Opening Ceremony (開講式)

Kanjo (勸請)

Kaikyoge (P. 7) (開経偈)

Dokyo - Hobenpon (P. 11) (読経・方便品)

Juryohon (P. 19) (寿量品)

Onkyo chodai (お経頂戴・頂経偈)

Sokun - Itai doshin ji (P. 93) (祖訓「異体同心事」)

Shodai (唱題)

Eko (廻向)

Shisei (P. 79) (四誓)

Odaimoku 3 (題目三遍)

Opening Message by Bishop Kanai (金井勝海北米開教区長挨拶)

Explanation of Schedule (スケジュールの説明・マコーミック龍英師)

(2) Morning Service (朝勤)

Dojoge (道場偈)

Invocation (勸請)

Verses for Opening the Sutra (p. 9) (開経偈)

Chanting - Chapter II (p. 15) (方便品第二)

Chapter XVI (p. 40) (如来寿量品第十六・自我偈)

Onkyo chodai (お経頂戴・頂経偈)

Sokun - Itai doshin ji (p. 93) (祖訓「異体同心事」)

Odaimoku (題目)

The Difficulty of Retaining the Sutra (P. 66) (宝塔偈)

Prayer (廻向)

The Great Four Vows (p. 78) (四誓)

Odaimoku (3 times) (題目三遍)

Buso (奉送)

日蓮宗北米教区教師研修会講演報告（望月真澄）

(3) Closing Ceremony (閉講式)

Kanjo (勧請)

Kaikyoge (開経偈)

Dokyo - Jigage (Gashidoannon) (読経 自我偈)

Sokun - Itai doshin ji (p. 93) (祖訓「異体同心事」)

Shodai (唱題)

Eko (廻向)

Shisei (四誓)

Odaimoku 3 (題目三遍)

Thank you Message by Bishop Kanai (御礼の挨拶)

※(1) から(3) の差定の括弧内は筆者の翻訳したもの。

※(1) から(3) のpの後の数字は『Nichiren-Shu Service Book DHARMA』

(Nichiren Buddhist Internanational Center) の頁数である。

(4) 講義時間表 (現地時間は日本との時差17時間遅れ)

Date	Time		Event	予定
2/25			Gathering	
2/26	9:00	am	Leave Hotel	ホテル出発
	9:30		Opening Ceremony	開講式
	10:00		Lecture	講義
	12:00	pm	Lunch	昼食
	1:00		Lecture	講義
	2:00		Lecture	講義
	4:30		Priests' Meeting	教師会議
	7:00		Welcome Party	歓迎会
2/27	8:30	am	Leave Hotel	ホテル出発
	9:00		Morning Service	朝勤
	9:30		Lecture	講義
	12:00	pm	Lunch	昼食
	1:00		Q & A	質疑応答
	2:00		Closing Ceremony	閉講式

日蓮宗北米教区教師研修会講演報告（望月真澄）

	2:30	Dismissal	解散
--	------	-----------	----

以上